

湿原のシカは一年中湿原に生息しているのか？ —釧路湿原における GPS 首輪装着個体の追跡—

*日野貴文¹⁾, 吉田遼人¹⁾, 佐藤温貴¹⁾, 五十嵐守¹⁾, 吉田剛司¹⁾, 村井拓成²⁾, 立木靖之²⁾, 赤松里香²⁾

(¹⁾酪農学園大学, ²⁾NPO 法人 EnVision 環境保全事務所)

北海道東部においてエゾシカ (*Cervus nippon yezoensis*) の個体数増加に伴い、農林業被害や生態系への影響が報告されている。日本最大の湿原である釧路湿原でも、植生変化など湿原生態系への影響が懸念されている。エゾシカの生態系への影響の把握、あるいはエゾシカの効率的な個体数管理には、個体数密度だけでなく個体群の分布や生息地の選択性を知ることが重要である。例えば、森林に生息するエゾシカに関する先行研究においては、エゾシカは季節移動し、同じ個体群内であっても季節移動先は個体によって異なり、季節移動をしない定住型の個体もあることが報告されている。さらにエゾシカが利用する生息地は、季節によって異なることも知られている。しかし、調査者のアクセス自体が困難な湿原生態系では、森林生態系と比べてシカ類の生態に関する研究は限られており、季節移動や生息地選択に関する研究事例は世界的にみても極めて少ない。

そこで本研究では、釧路湿原内にてエゾシカに GPS 型首輪を装着し、湿原生態系におけるシカの季節移動及び生息地選択を検証した。夏季(2014年10・11月)に釧路湿原の右岸堤防にて10頭のメス、冬季(2015年2月)にコッタロ地区にて10頭のメスにGPS首輪(Lotek社 Iridium trackM2D)を装着して追跡を行った。位置情報の受信間隔を3時間に設定し、加えて、より詳細な移動や生息地の選択性を知るために、ひと月に3日だけ1時間ごとに測位した。

20頭のエゾシカ(2頭はGPS首輪の故障等により追跡不可、1頭は一般狩猟にて補殺)の追跡により、季節移動のパターンは大きく分けて3つあり、①年間を通じて湿原内で生息、②夏季は湿原内に生息し冬季は湿原外、③夏季は湿原外に生息し冬季は湿原内、であった。これらの結果により、釧路湿原のエゾシカの生息は湿原周囲の森林・農地での系外資源によって支えられていることが示唆された。さらに、生息地の選択性をこれらの季節移動の結果とともに明らかにすることで、湿原生態系におけるエゾシカの生態の解明、さらには効果的な個体数管理方法について議論したい。